

2月1日(日)朗読会のお知らせ

関東に住む同窓生の皆さんへ

2月1日(日)に、東京の武蔵境駅(JR中央線・西武多摩川線)の北口から3分のところにある武蔵野スイングホール2Fで15:00~17:00まで、朗読会『たった一つの命だから』が開催されます。

…「たった一つの命」とは、西尾誉佳(にしおえいか)さんという女子中学生が「たった一つの命だから」と書いた年賀状の文字が発端となり始まった「愛と命の運動」です。誉佳さんは、16歳でその短い生涯を閉じるまで、約2年半の闘病生活で困難に立ち向かい、周りの人たちに対する愛情を忘れず、いつも前向きに真心を尽くして最期まで一生懸命生き抜きました。

誉佳さんは、14歳の時、発病した骨肉種により右腕を失っていたため、左手でこの力強い文字を書きました。この文字を見た人が「誉佳さんは、この言葉の後に何を言いたかったのだろうか」と問いかけると、とても良い言葉が返ってきました。それがきっかけでメッセージ集めが始まり、あるラジオ番組でその取り組みを紹介すると思ってもよらない大きな反響がありました。紹介された「たった一つの命だから」に繋ぐ言葉に心を動かされた視聴者が自分の心の思いを「たった一つの命だから」に繋いで書き送ってくるようになったのです。そのようにして集まってきたメッセージの「朗読会」が始まるようになりました。



メッセージを聞いた人々からは、「息子が非行を反省して態度が変わってきた。」「リストカットを繰り返してきたが、両親に対する感謝に目覚めた。もう両親を悲しませるようなことはしない。」「自殺することを考えてきたが、もうしない。生きることに決めた。」などの感想やメッセージが寄せられています。多くの方が希望や勇気を与えられ、困難を乗り越えていこうとする前向きな姿勢へと変化を見せています。…(社団法人「たった一つの命」hpより)

実は、誉佳さんのお母さんが西尾裕子さんで、遺愛の同窓生です。当日、函館から武蔵野スイングホールに出向くそうです。ぜひ関東に住む同窓生の方々に来ていただければと願っています。

2015年1月27日